様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-エ	学びと生きがいを支える多様な生涯学習環境の充実	施 策	②生涯学習機会の充実
			施策の小項目名	○人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進
主な取組	県立博物館・美術館「移動博物館」の開催		対応する成果指標	生涯学習講座のサテライト施設数
施策の方向	・沖縄県立博物館・美術館による「移動博物館」の実施や沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習を通して、人々の心に潤いを与え、生きがいをもたらし、人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進に取り組みます。			

1　取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
指定管理者と連携した教育普及活動の一環として、博物館・美術館に日常的に来館することが困難な県内の離島・遠隔地の方々を対象に、沖縄の自然・歴史・文化・芸術等への理解を深めるための移動展を実施する。	県,指定管理者	地域ゆかりの作品・文化財等の展示計画・実施		
		離島・本島遠隔地における移動展の来場者数（累計）		
		100人	100人（200人）	100人（300人）

担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課　【　098-866-2768　】	関連URL	—

様式１（主な取組）

２　取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　　（単位：千円）

予算事業名	–

主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額
県単等	その他	1,000	6,502

令和6年度活動内容

令和７年１月に多良間村で開催した。開催地から要望のある恐竜骨格標本等の各種資料を展示するとともに、ワークショップ・体験教室等も開催した。

予算事業名	–

R7年度		
主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	その他	2,140

令和7年度活動計画

令和８年１月に恩納村での開催を調整中。恐竜骨格標本等の各種資料を展示するとともに体験教室等も開催を予定している。

活動指標名	離島・本島遠隔地における移動展の来場者数（累計）					進捗状況	活動概要
			R6年度				
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	496人	390人（886人）	403人（1289人）	100人（300人）	100.0%	順調	多良間村教育委員会や指定管理者と連携し、恐竜骨格標本や各分野の資料を展示した。多良間村の民話も合わせて会場内で上映した。出前授業、ワークショップ、フィールドツアー、星空観察会等も同時に実施した。

様式１（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
３日間の開催期間中に開催地の多良間村の人口約１０００人のうち、およそ半数近くの４０３名が来場し、関連催事には２４８名が参加し大変好評であった。 来場者・関連催事参加者 の内訳は下記のとおりである。 （展示室４０３名、ワークショップ１６６名、フィールドツアー２１名、星空観察会６１名）

（２）これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○移動博物館の持続的な開催のために、より効率的・効果的な実施形態・運営について、開催地の教育委員会や指定管理者とともに連携を取りながら、引き続き検討・協議する。 ○展示資料の精選を行うと同時に、開催地の県民ニーズに可能な限り応えられるよう効率的・効果的な開催方法・展示内容について、開催地の教育委員会や指定管理者と連携を取りながら、引き続き検討・協議する。	○現地教育委員会（多良間村）との事前調整、現地下見、直前の打ち合わせ等を複数回行い、開催地の要望等を情報収集し、効果的な広報活動、展示内容等を検討・協議した。 ○現地教育委員会（多良間村）との調整を踏まえ、展示要望の多い恐竜骨格レプリカ等の自然史資料を中心に展示構成を組み立て、各分野の資料を組み合わせた複数展示を行った。

3　取組の検証（Check）

類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	広く村民（島民）、県民に移動展開催を周知し来場いただくため、現地教育委員会や指定管理者と連携を取りながら、より効果的な広報活動の工夫・強化が必要である。

4　取組の改善案（Action）

類型	内容
④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	開催地での広報活動だけでなく、館の公式ホームページ等でも広報活動を行ったことで、沖縄本島、県外から多くの方に参加いただいた。次年度は、ＳＮＳ等を活用するなどより効果的な広報活動を検討する。

様式１（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-エ	学びと生きがいを支える多様な生涯学習環境の充実	施 策	②生涯学習機会の充実
			施策の小項目名	○人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進
主な取組	沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習		対応する成果指標	生涯学習講座のサテライト施設数
施策の方向	・沖縄県立博物館・美術館による「移動博物館」の実施や沖縄の自然・歴史・文化・芸術と結びついた体験学習を通して、人々の心に潤いを与え、生きがいをもたらし、人々の交流を生み出す文化・芸術活動の推進に取り組みます。			

1　取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
指定管理者と連携した教育普及活動の一環として、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会の提供を目的に、沖縄の自然や歴史、文化等と結び付けた体験学習等を実施する。	県,指定管理者	体験学習プログラムの編成・実施		
		体験ワークショップ、フィールドワーク等を通した学びの場の提供回数（累計）		
		13回	18回（31回）	18回（49回）

担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課　【　098-866-2768　】	関連URL	―

様式１（主な取組）

２　取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　　（単位：千円）

予算事業名	学校連携事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額
県単等	その他	3,042	3,995

予算事業名	学校連携事業	
R7年度		
主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	その他	4,486

令和6年度活動内容

夏休みの体験型ワークショップ・子どもフェスタ、外部講師の文化講座・学芸員講座（年間各23回開催）、体験講座等（年間３件以上）を開催した。

令和7年度活動計画

夏休みの体験型ワークショップ・子どもフェスタ、文化講座・学芸員講座（月各2回、年間各24回）、体験講座等（年間３件以上）を開催する。

活動指標名	体験ワークショップ、フィールドワーク等を通した学びの場の提供回数（累計）		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	74回	116回（190回）	158回（348回）	18回（49回）	100.0%	順調	夏休みに向けての学芸員による体験型ワークショップ・子どもフェスタ、外部講師による文化講座（12回）・学芸員講座（11回）を実施した。そのほか、展覧会関連体験講座等を実施した。

様式１（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
体験型ワークショップ等のニーズは増加傾向にあり、８月以降、その傾向は顕著で参加者数も大幅に増加している。県民ニーズに応えるため開催回数を増し、定員数を増やすなどして対応した。各催事の開催回数（計158回）の内訳は次のとおりである。体験型ワークショップ等25回、文化講座・学芸員講座23回、展覧会関連体験講座等22回、展示解説会・バックヤードツアー68回、民具体験等20回。

（２）これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○高まる県民のニーズに応えるため、より質の高い各種講座・体験教室となるよう実施内容の充実を図る。	○より質の高い講座・体験教室となるよう、学芸員が主体となりその学識経験を反映し体験型ワークショップ、文化講座・学芸員講座実施内容の充実を図った。

3　取組の検証（Check）

類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	年々、各種講座・体験教室等のニーズは高まっているとともに、中身の多様性が求められており、今後もこの傾向は続くと推測される。
⑦ その他(改善余地の検証等)	利用者のニーズは多様化かつ高度化している。これに対応するためには回数だけなく、事業内容も考慮していく必要がある。

4　取組の改善案（Action）

類型	内容
⑧ その他	県民のニーズに応えるため、より質の高い各種講座・体験教室となるよう実施内容の充実化を図るとともに適切な実施回数についても検証する。
⑧ その他	事業内容等、取組の検証を継続し、より良い内容となるよう必要に応じて事業内容とともに、収容人数に応じた実施会場の見直しを図る。